

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	水槽付消防ポンプ自動車の脱輪事故
3. 体験した事例の中心的要素	市内西部地区にて、地理水利調査及び機関員運転操作訓練を実施。道幅約4mの三叉路を右折する際、車輪右後輪（ダブル）を道路脇の畠（高低差約50cm）に脱輪し、走行不能となった。
4. 体験した事例の原因・理由	事故の2ヶ月前に大型免許を取得した隊員の運転操作訓練を実施回数に拘らず、道幅・視界等も十分であったため、分隊長である自分が、目視による確認および、口頭での注意換気を怠った。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 20 年 11 月 30 日 午前 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：宮崎県延岡市宇和田町内の市道上
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	その他：脱輪
7. 事例体験時の活動	警防調査 []
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[34]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[9] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[24]歳、 勤続年数[6]年、 現場経験年数[6]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[58]歳、 勤続年数[34]年、 現場経験年数[30]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [複数隊の隊長]
その他 (当事者が4人以上の場合)	年齢：20歳 勤続：1年 現場経験：1年 階級：消防士 活動：初めて 任務：隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	B	右折時に脱輪した。	
経過 2	C	中隊長に無線連絡をした。	
経過 3	A	B・D に水槽内の水を放水するよう指示。	
経過 4	C	所有者に陳謝し、自力脱出用にブロックを借用。	
経過 5	C	自力脱出不可能の為、救助隊要請。	
経過 6	救助隊	ワインチにて引き上げ脱出した。	
経過 7	C	所有者にお詫び及び借用したブロックの返却、お礼を述べた。	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

For more information about the study, please contact Dr. John Smith at (555) 123-4567 or via email at john.smith@researchinstitute.org.

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 いいえ
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 いいえ
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b 注意力が欠如していた

- ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

今回の事故は、ベテラン・新任に関係なく起こりうる事故である為、災害出場時や交通量の多い交差点同様に、分隊長はもとより同乗者全員で目視による確認を行うよう、署全員で再確認を行った。

